

洛東園 だより

■平成24年1月発行 社会福祉法人 洛東園
■発行責任者:木村晴恵
■〒605-0981 東山区本町15丁目794
■電話番号:561-1171 ■FAX:531-8372
■ホームページアドレス <http://www.wf-rakutouen.com>



新年のご挨拶～縁～

社会福祉法人 洛東園 特別養護老人ホーム修道洛東園 施設長 西村 英亮

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、昨年は4月に修道洛東園が無事に開設し、10月には「縁」があつて修道洛東園施設長に就任することとなり、「あつという間」に過ぎた1年間でした。本当にこの1年間を無事に大きな事故もなく、やってくることができたのも、ご利用者、ご家族、地域の皆様に支えられながら、法人役職員一同が志を一つに取り組んできた成果だと感じています。皆様、本当にありがとうございました。

先程、「縁」があつてと書かせて頂きましたが、縁とは本当に不思議なものです。遠い昔の話になりますが、私は平成6年の4月に社会福祉法人洛東園に就職しました。当時は男性の介護職員也非常に少なく、他にやりたいこともあり、長く働く気持ちはありませんでした。きっとそういう気持ちが仕事ぶりや態度で伝わってしまったのだと思いますが、当時、先輩職員から業務中に

ミスが続いた時に言われた言葉が、今も胸に残っています。それは、「あなた、一体どういうつもりなの！経験がないからとかは言い訳にならない。お金をもらっている以上はプロでしょう！」という言葉です。

この言葉が胸に響きました。自分が恥ずかしいというか、悔しくて何とか認めてもらいたいと思い、以後懸命に必死で頑張ったことを今でも鮮明に覚えています。そして月日が過ぎて現在に至ります。

本当に今思えば、尊敬する先輩職員に出会わなければ、きっと自分は介護の仕事を続けていなかったでしょう。相手を本当に思うからこそ、敢えて厳しく伝えることもある。それが本当の優しさだと思います。新年号には苦情アンケートの結果を記載しております。ご指摘頂いたご利用者、ご家族の意見を「本当の優しさ」と受け止めて、今後の施設運営に反映していきたいと考えております。これからも皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

洛東園の理念

- 個性・自主性を尊重し明るい温もりのある生活
- 安全と快適な暮らし
- 地域に根ざした開かれた施設

□訪問介護 “ご縁”と“お陰様で”



私たちヘルパーは、利用者さん、ご家族、ケアマネジャーなど色々な人とのご縁があって、訪問させて頂いております。

私は、ヘルパーの資格を取って、初めて訪問させて頂いた利用者さんが、中途失明の90歳の野村さん（仮名）でした。援助内容は買い物同行でした。

「お互いに初めてだから、慌てずゆっくり行きましょう」「以前は見えていたし、子供の頃からずっと住んでいる所だし、だいたい見当がつくから、段差だけしっかり教えて」と野村さんは、私の緊張をほぐすように気を遣って下さいました。

資格を取って間もない私と、ヘルパーを利用する時は初めての野村さん。道中、声かけが早すぎたり、立ち止まるタイミングが合わなかつたりしながらも、無事に帰宅できた時には、ホッとしたのと同時に、ヘルパーとしての責任の重さを感じました。

帰り際に「これも何かのご縁だから、今後もよろしく」と言って下さり、胸がいっぱいになつたのを覚えています。たくさんのヘルパー事業所がある中、本当に“ご縁”がなければ野村さんとお会いできなかつたと思います。ヘルパーを利用して気付かれた事など教えて下さり、今も私は野村さんの言葉を心に留めながらヘルパーを続けています。

先日、長らくご利用頂いている鈴木さん（仮名）から、「ご縁があつて来てもらうようになって、お陰様でワシはこの歳でも元気な方やろ？あります」とお話がありました。

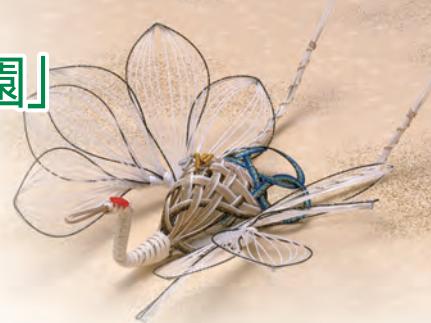
利用者さん宅を訪問し、利用者さんとのほっこりした会話の中で、“ご縁”“お陰様で”という言葉をよくお聞きします。長い人生の中で、それとの“ご縁”を大切に、“お陰様で”的感謝を忘れずに歩んでこられたことが伺えます。

新年を迎えるにあたり、また新たな気持ちで利用者さん宅に伺い、“ご縁”を大切に“お陰様”での感謝を忘れず、支援させて頂きたいと思います。今年もたくさんの方々とのご縁がありますように。



□特別養護老人ホーム「修道洛東園」

夫婦の縁



修道洛東園には、ご夫婦で入居されている方や、ご姉妹で入居されている方がおられます。一人で過ごす時間や二人でお話をする時間など、互いに良い距離を保って生活されています。

その中の一組、憲一さん^{よしこ}嘉子さんご夫婦は、3階で暮らしておられます。職員が嘉子さんに「今日はご主人に会いに行かれましたか?」と聞くと、「まだや。ちょっと顔見に行ってくる」と言って会いに行かれます。大きな声で「来たえー」と話しかけると、憲一さんは「なんやー」と言いながらにこっと嬉しそうな笑顔をされます。

ある日、職員がご夫婦と一緒に1階にある喫茶店へ行った時の事です。

職 員：嘉子さん、ご主人の好きなところはどこですか。

嘉子さん：おとなしいけど、でも優しい。私がやんちゃやから。

職 員：憲一さんは嘉子さんのどんなところが好きなんですか。

嘉子さん：(笑顔で)ほんまの事言ってええよ。

憲一さん：(笑顔で)こわいよー。



憲一さん、嘉子さんご夫婦

お二人のやりとりは非常に微笑ましく、長年のご夫婦の絆を感じます。

また、憲一さんに夫婦円満の秘訣についてお聞きすると、

「女は逆らったら恐いよ。何も言わへんかったら向こうも言わへんわな。言わぬが華。けんかもした事ないよ。そやから今までやってこれたんや」

と、笑顔で話しておられました。

職員が嘉子さんに「ここでも憲一さんと一緒にになってよかったです」と話しかけると、「こんな幸福なことはないよ。みんなあんたらのおかげや」と言ってくださいました。その言葉を頂けた事に感謝し、お二人の永く深い縁がこれからも続きますよう、見守っていきたいと思います。

□ もみじの家 縁をつなぐ庭



もみじの家の玄関に入ると、大きな窓ガラス越しに50坪程の「庭」を臨むことができます。春は新緑、初夏にはピンク色のつつじが咲き、秋にはもみじが紅葉し、冬には白いさざんかと、四季折々の表情を見せてくれます。

この「庭」はもともと、古い造り酒屋にあった、100年前からある「庭」です。その「庭」を残してマンションが建てられ、その1階がもみじの家となっています。そんな庭を眺めながら食事をしたり、おしゃべりに花が咲いたりと、利用者さん同士の交流に一役買ってくれています。

今回は、生まれた時から現在に至るまで、この町にお住まいの横田さん（仮名）と竹内さん（仮名）にお話を伺ってみました。

お二人は幼なじみですが、別々の女学校に行かれてからは遊ぶ機会がなくなり、嫁がれた後も忙しい日々のため、挨拶を交わす程度だったそうです。



お二人がもみじの家に来られた時期は違いますが、もみじの家でやっとゆっくりと過ごす時間ができました。

「今日は、横田さんはいやらへんのか」「竹内さんはどうしたはんのえ」とお互いの顔が見えないと、いつも職員に様子を尋ねられます。

お二人がご一緒の時には、この庭を眺めながら、「ようここの前でなわとび、おじゃみしたな」「本町通は一日に車が一台通ったらしいとこやったし、私たちの遊び場やったわ」「酒屋の玄関先の庭も立派やったわ」と昔話に花が咲きます。

お二人は年を重ねられ、幼少の頃に遊んだこの場所で再びお話をしたり、歌を歌ったり、共に時間を過ごしておられます。

もみじの家は、フロアから眺める「庭」のある、さながら「縁側のような場所」になっています。「庭」はこれからも、もみじの家の利用者さんを見守り続けてくれると思います。

□ デイサービスセンター 縁の下の力もち

カラオケクリエーションの時の平岡さん

デイサービスセンターには、様々な形でボランティアさんが来て下さっています。利用者さんにお茶を出して下さったり、配膳の準備や片付けといった目に見える部分だけではなく、見えない部分でも利用者さんや職員を助けて下さっています。

頭の体操として行っているプリント問題の答え合わせでは、職員がホワイトボードに答えを書きこみます。その時、文字が見えづらく困っておられる利用者さんを見かけると、さりげなく隣に座り、口頭で答えを教えて下さるなど、利用者さんと職員との橋渡しをしてくださっています。

今回、10年近くお世話になっているお二人のボランティアさんに、お話を伺いました。

職 員：洛東園でボランティアをされることになったきっかけは何ですか？

平岡さん：主人の母を介護するために、ヘルパー2級の資格を取りました。知人に洛東園でのボランティアを勧められ、ヘルパーの勉強をしていた時、講師に来られていた木村さん（現園長）の講義がすごく解りやすかったのを思い出し、洛東園に決めました。

野村さん：親の介護を終えた頃「自分にも福祉でお役に立てる事がないだろうか?」と思っていた時、知人から洛東園でのボランティア活動を勧められました。福祉の事を学ぶうえで必ずプラスになると思い、お世話になる事にしました。

職 員：ボランティアをしていて楽しいと感じることは何ですか？

平岡さん、野村さん：日々、利用者さんや若い職員さんとの会話の中で、様々なことを学ばせもらっています。新たなご縁を洛東園で結ぶことができ、利用者さんと「久しぶり」「またね」と声を掛け合えることや、笑顔で「ありがとう」と言っていただけた時が楽しいです。

他にも、楽器演奏や歌を披露して下さる方や、筋力のトレーニング、マジックを披露して下さるボランティアさんもおられます。

様々な形で、ボランティアさんが縁の下の力もちとなって支えてくださっており、利用者さんだけではなく職員も元気をもらっています。

ボランティア活動に興味を持たれた方は、ぜひ、お気軽にお声かけ下さい。新たなご縁の輪を広げることが出来れば、嬉しく思います。

□特別養護老人ホーム「洛東園」 出会い



洛東園に入所されて8年目を迎えた多田さんは、いつも笑顔で職員を迎えてくださいます。また、実習生や採用間もない職員が何か困っていると、「どうしたんや」と声をかけて下さいます。とても優しく、少し照れ屋な多田さんに、入所された頃の様子と現在の暮らしについて尋ねてみました。

職 員：洛東園に来られた頃はどうでしたか。

多田さん：最初は長年暮らしたなじみの生活から離れることが悲しいと思ってたけど、来たばかりの私に皆さんが優しくしてくれて不安がなくなったわ。

職 員：ここでの思い出は何かありますか。

多田さん：洛東園に来て、職員さんたちと一緒に買い物に出かけたり散歩したり、思い出はいっぱいや。洛東園祭りで毎年合唱に参加できることも楽しい思い出やわ。

職 員：ここに来られて8年が経ちましたが、いかがですか。

多田さん：今では顔なじみの人がたくさん出来て、声をかけてもらえることが一番嬉しいわ。洛東園でたくさんの人と会えたことに感謝の気持ちでいっぱいや。これからもよろしくお願いします。

恥ずかしそうに思い出を話して下さいました。利用者さんや職員との“出会い”が、洛東園での生活を充実したものにしているのだなと感じました。これからも職員一同、日々の関わりの中で利用者さんと巡り合えた“縁”を大切に支援していきたいと思います。

□ 養護老人ホーム 縁結び



養護老人ホームで生活されている菊地さんは、今年で90歳になられました。昔は手先の器用さを活かして子供の服を編んだり作ったりしたそうですが、今は目が疲れる編み物などはされず、折り紙をして過ごされています。

先日開催された洛東園祭りには、いろいろな色の折り紙を組み合わせて作った「毬」を出品されました。その「毬」は色鮮やかだったので、多くの利用者さんが「毬を分けて欲しい」「折り紙を教えて欲しい」と言って来られたそうです。

「折り紙を教えて欲しい」と来られた利用者さんは、あまり話をした事はなかったそうですが、折り紙を折りながら昔の話(美容師をしながら子育てした事や戦時中の事など)をして、互いにここまで苦労を乗り越えて来た事を知り、仲良くなれたと話して下さいました。



毬



折り紙をしている菊地さん

昔、菊地さんが折り紙を教えていたご近所さんが、今もおしゃべりをしに園に来られます。来られる時には、菊地さんが折り紙の折り方を忘れないように、そしていつまでも園で折り紙を続けられるようにとの思いで、折り紙を持って来られます。

同じ養護老人ホームの利用者さんが「折り紙を教えて欲しい」と菊地さんを訪ねたり、入所前の知人が菊地さんに会いに来られたり、折り紙は菊地さんが出会った人と仲良くなれる「縁結び」の役目をしています。

これからも菊地さんが、折り紙を通してたくさんの人と繋がれるよう、職員も「縁結び」のお手伝いをさせていただきます。

□ 地域包括支援センター 懐かしい「縁側」の風景



「縁側」という言葉を聞いて、あなたはどんなイメージを思い描きますか？

一昔前の珍しくない風景、故郷の実家、田舎の農家、今の若い世代はテレビの映像をイメージするかもしれません。「縁側」とは、「室内と屋外との中間の場所、外と中とを繋ぐ曖昧な空間」とあります。外を内に取り込み、自然との調和を楽しむ日本人の願望の現われであり、日本の文化の一つです。

また「縁側」は、自然との調和だけでなく、人と人との交流の場としての役割も担ってきました。かつては都市にも田舎にも、気軽に腰掛けたり、作業をしたり、人々が談笑したりする「縁側」があり、近所の方との気軽な交流が当たり前の風景でした。しかし、新しく出来る住まいから「縁側」は消え、井戸端会議というコミュニケーションも、以前ほどは見かけなくなってきたいるのではないでしょうか。人ととのふれあいが希薄になると、地域の人間関係もキシミ始め、子どもにも高齢者にも生きにくい状況を生み出します。

東山区は人口の3割近くが65歳以上であり、単身高齢者の方が3000人を上回ります。中には社会から孤立してしまい、大きな不安を抱え、淋しい思いをしている方も多いです。洛東地域包括支援センターは、東山区南部の一橋・月輪・今熊野にお住まいのご高齢の方を対象とした相談

をお受けする、身近な窓口となっています。

時代の移り変わりにより、日本の文化は少しずつ変化していくますが、人と人が繋がり合うことの大切さは今も昔も変わりません。これからも洛東地域包括支援センターでは、地域の人々が談笑したり、ふれあったりする…そんな「縁側」で行われていたような気軽なコミュニケーションが図れる住みよい町づくりを、サポートしていきたいと思います。



ご利用者アンケート 結果報告

洛東園のサービスをご利用の方を対象に、今年度もアンケートにお答えいただきましたので、結果をご報告いたします。今後もより良いサービスとなるよう努めてまいります。

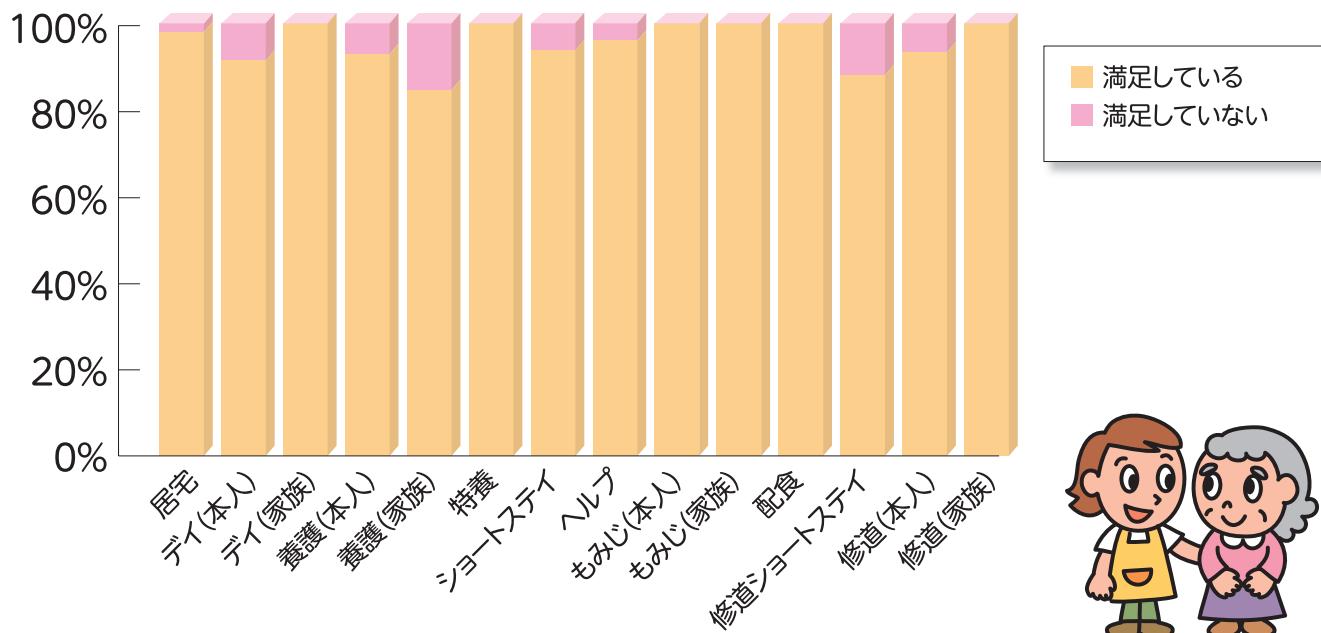
ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

各サービス共通

問) 洛東園のサービスに 満足していただけていますか

- ・ケア内容へのご要望
 - ・職員の接し方に関するご意見
 - ・食事に関するご意見
 - ・養護棟の建物老朽化に伴うご意見
- などその他にも多くの意見が寄せられました。

「高齢化社会と言いますが、このような施設も、客商売、サービス業と考えます。入居者はもちろん、家族らに対する接し方を、サービススタッフはもちろんの事、施設に関わる全ての方が、言葉使いや態度を、今一度向上心を持って取り組んでいただきたい」というご意見も頂きました。職員教育を再度行い、より満足いただけるサービスを提供してまいります。

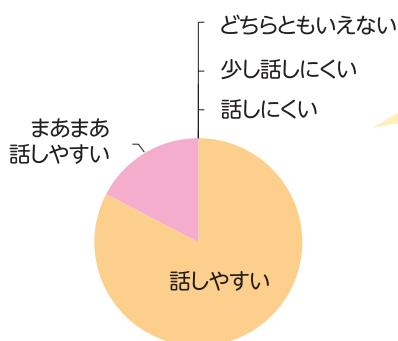


《用語解説》

- 居宅=居宅介護支援事業所
- デイ(本人)=デイサービス利用者
- デイ(家族)=デイサービス利用家族
- 養護(本人)=養護老人ホーム利用者
- 養護(家族)=養護老人ホーム利用家族
- 特養=特別養護老人ホーム
- ショートステイ=短期入所利用者
- ヘルプ=ホームヘルプサービス
- もみじ(本人)=小規模多機能サービス利用者
- もみじ(家族)=小規模多機能サービス利用家族
- 配食=配食サービス
- 修道ショートステイ=修道短期入所利用者
- 修道(本人)=修道利用者
- 修道(家族)=修道利用家族

特別養護老人ホーム

問) 職員は話しやすいでしょうか?



(ご家族より)

◎寄せて頂いた時に挨拶は皆様おっしゃってくださいます。

本人のいるところまで、案内してくれてありがとうございます。

→今後もお気軽にお越しいただけるよう、マナー・接遇研修に取り組んでまいります。

ショートステイ

問) その他、ご意見やお気付きの点がございましたらご記入下さい。

◎会話を楽しめる相手がない。

→ご利用者同士でコミュニケーションが図れるように、介護職員が援助していきます。

養護老人ホーム

問) トイレは気持ちよく使えていますか



(ご利用者より)

◎パッドを置いたままにする利用者がいるので、なんとかしてほしい。

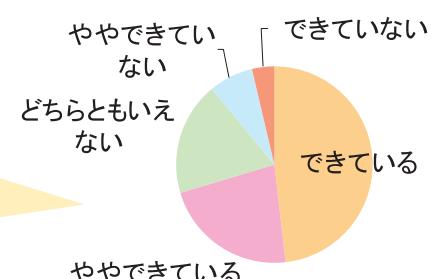
→ご利用者に分かりやすいよう、廃棄場所の表示方法を変更するとともに、回収をこまめにいたします。

問) お部屋やフロアの整理整頓は出来ていますか

(ご家族より)

◎整理・整頓は出来ていると思いますが、シーツや布団の汚れが気になります。

→交換や点検の頻度を増やし、清潔を保てるようにいたします。



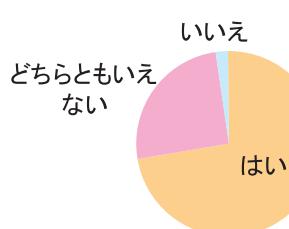
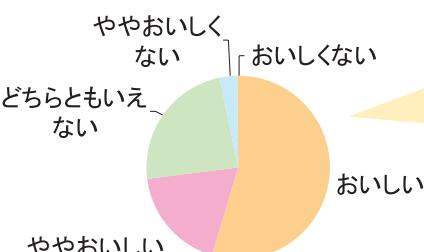
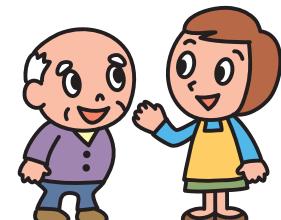
修道洛東園

問) 食事の味付けはいかがですか

(ご利用者より)

◎ごはんがやわらかすぎる時があります。普通でお願いしたい。にんにくのにおいはいやです。

→12月中旬に1週間の食事状況の調査を行いました。その結果をもとに今後の献立に反映いたします。



問) 居室やフロアの清掃はいきとどいていますか

(ご家族より)

◎職員一人一人が気が付かないのか、落ちているゴミや汚れを片付けようという姿勢がうかがえないような気がします。

→日頃の環境整備への意識を高め、こまめな清掃を再度周知するとともに、掃除マニュアルとチェック表を作成し、隨時確認してまいります。

修道ショートステイ

問) その他、ご意見やお気付きの点がございましたらご記入下さい。

◎他のショートステイの所では「明日からです」というように前の日に電話がありましたが、ないので日を間違えていないか不安になることがあります。

→12月よりご利用日の前日に電話連絡をさせていただいています。利用日の確認と合わせて、前回のご利用以降の様子などを事前にお聞きしておくことで、職員の受け入れ態勢を整え、安心してご利用頂けるよう改善いたしました。

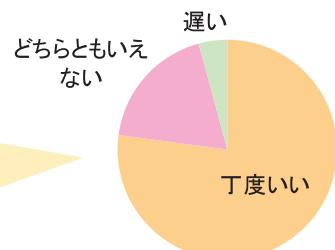
デイサービス

問) 送迎の時間はいかがでしょうか

(ご家族より)

◎迎えに来ていただく時間が少しまちまちなのですが。だいたい同じ時間に来ていただけると嬉しいのですが。

→曜日や交通事情、送迎の範囲により、時間に差が生じることがあります。時間が早くなる、遅くなる時、事前にご連絡するようにいたします。

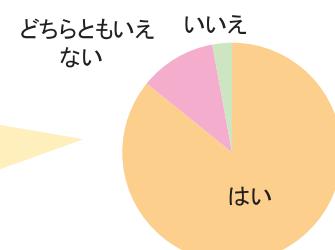


問) 気持ちよく入浴していただけていますか

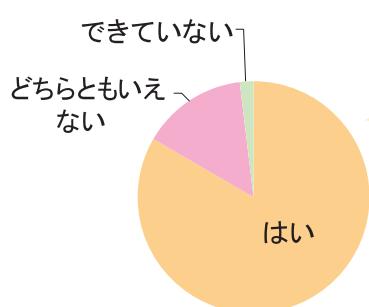
(ご利用者より)

◎背中とかも力を入れて洗って下さい。

→力加減を確認しながら援助することを、再度徹底していきます。



ホームヘルプサービス



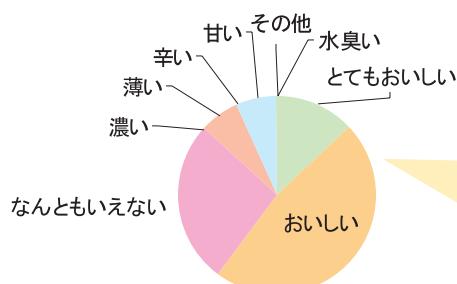
問) 説明をきちんとしてから、援助を行えていますか

◎人によって、引継ぎがちゃんと、出来ていないと感じる。してくださる内容が抜けている感じがする。

→随時ご利用者、ご家族に援助がきちんと行えているかを確認し、どの職員が見てもわかりやすい、援助の手順書を作成し、ケアの統一を図ります。

もみじ(小規模多機能)

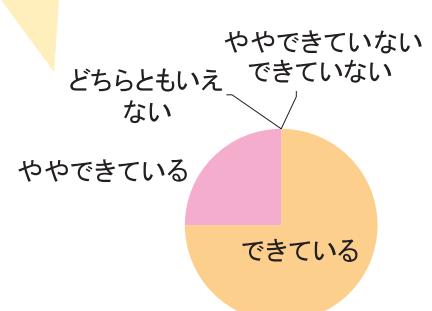
問) 食事の味付けはいかがですか



(ご家族より)

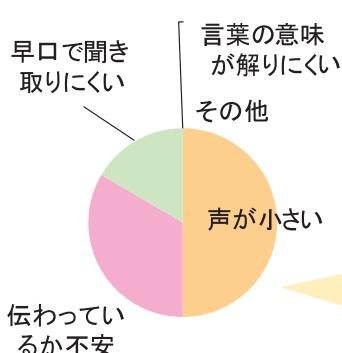
◎ゲームや遊びに参加している様子が詳しく書いてあると良いです。

→ご利用時のご様子をわかりやすくお伝えできるようにいたします。



居宅介護支援事業所

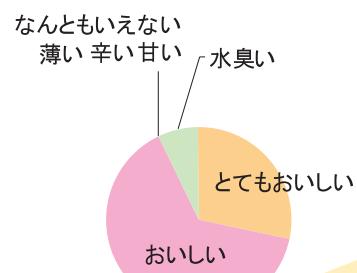
問) 電話で不快な思いをされたのはどんな時ですか



(ご家族より)
◎年寄で耳が遠い。
ゆっくりと大きな声で
言ってほしい。
→声の大きさ、トーンに
気をつけて、ゆっくりわ
かりやすくお伝えでき
るようにいたします。

配食

問) 配食弁当の味付けはいかがですか



◎副菜の味付けが水臭い
時がある。

→皆様の意見を活かし、
健康面に配慮しながら
「おいしい」と感じていた
だけるように工夫してま
いります。

洛東園の行事予定

施設名	月	1月	2月	3月
養護老人ホーム		屋内ゲーム		ボランティア表彰
特養 洛東園		元旦祝賀式	節分会	家族交流会
修道洛東園		新年会	節分会	家族交流会
デイサービスセンター		新年会	節分会	雛祭り
もみじの家		新年会	節分会	家族交流会
全 体		元旦祝賀式	節分会	彼岸法要

.....その他、クラブなども随時行っております。.....

寄付・寄贈

清水社会福祉協議会様、清水民生児童委員協議会様、竹之内運送株式会社様、平林朋宗様、原 健様、浅田 博様、津田高英様、京都市立月輪中学校様、今熊野社会福祉協議会様、三村繁武様、東郷ふく様、今村壽子様、一橋社会福祉協議会様、一橋民生児童委員協議会様、大山良雄様、古村 聰様、月輪社会福祉協議会 大釈春樹様、月輪シニアクラブ様、月輪民生児童委員協議会様、今熊野民生児童委員協議会 伊藤 清様、松永洋子様、磯松洋子様、修道民生児童委員協議会様、修道社会福祉協議会様、石井静男様、森本好子様、貞教社会福祉協議会様、近藤真弓様、木村信夫様、(社福)京都市東山区社会福祉協議会様、土倉金三様、いしい医院 石居志郎様、山元美代子様、株式会社いのん様、他ありがとうございました。

寄付・寄贈順

洛東園だより

発行／社会福祉法人 洛東園

〒605-0981 東山区本町15丁目794
電話番号:561-1171 FAX:531-8372
ホームページアドレス<http://www.wf-rakutouen.com>

※尚、記事中の写真は全てご本人様、ご家族様の
承諾を得て掲載しております。